

草たばね

長唄

全詞章

作詞者・作曲者・初演年不詳

櫛笥鏡台とりそろへ、言葉に言はぬ玉祭り、灯籠の房のばらばら、もつれて解けぬ軒のつま
明けの心を思ひやる、月と影との鏡山、人の惜しみし甲斐もなく、いま三つ瀬川白波や
同じ流れに散る萩の、露も涙も男ゆゑ、世界の心
日の本の神々さまを祈りて、しせいもんくつされ、末の世までもほかにないぞと繰り言ながら
返す返すも面影の、言ふに言はれぬ我が涙
濡れて墨散る古言を歌ふ、手向けのさまざまに存じまゐらせ候ふかしく